各自の経験からネット交流のあり方探究

学級活動と道徳結び情報モラル教育

岐阜県揖斐小のICT活用報告会で

岐阜県揖斐川町立揖斐小学校（横山隆光校長、児童数197人）は、10月24日、ICT活用報告会として各学年の実践を公開した。同校は今年度のパナソニック教育財団実践研究助成特別研究指定校にも選定。インターネットとの関わりやトラブル防止を見据え情報モラル教育を道徳の時間と関連付けた実践にも力を入れている。4年生の学級活動では、児童の実態をもとにメールやSNSでのトラブル事例を動画で示し、利用時の注意を児童間で検討。続く道徳では、日頃のゲーム機利用と生活への影響を考え、適切な使用法への意識を深めるきっかけとした。

身近な題材をもとに児童各自が情報モラルの意識を深めた

送り手、受け手の視点でメールの使い方を検証

4年生では、学級活動と道徳の時間に位置付けた2時間連続の情報モラル教育の実践が公開された。指導者は林和也教諭。

学級活動では、児童に事前アンケートとして「携帯電話の利用ルールを決めているか」「友だちと遊ぶ約束をした際、うまく伝わらなかった経験はあるか」などを問い、その結果を共有しながら「メールする際に気をつけること」を考えた。

児童からは、遊ぶ約束をしようとしたら「友だちが家にいなかった」ことや、約束を伝えたと思っていたら「内容が正しく伝わっていなかった」などの経験が明らかにされた。

そんな経験を踏まえ、続いて、小学生が携帯電話やメールで交流する中で起きた複数の課題を再現したドラマ風の動画資料を視聴。その上で、今後、「メールで情報をやりとりする際にはどんなことに気をつければよいか」を考えた。

大型デジタルテレビ上の物語では、主人公の女の子が携帯電話で友だちに何度もメールを送ったり、特定時間内の返信を迫ったりする様子などが流れ、返信を意識するあまり、食事中も携帯電話が手放せなかったり、メールを夜中まで夢中になって読み返したりする状況なども映し出された。

全体交流では、「お母さんが食事中にも携帯電話を手放さないことを注意するが、女の子はすぐに返信することだけに気を取られている」などの問題点が指摘され、「メールを送っている女の子」と「メールを受け取る友だち」のそれぞれの気持ちについても考えていった。

送る側の気持ちでは「相手がなかなか返事をくれないことに対するつらさがあるのでは」との意見に対し、受け取る側の気持ちでは「何度も返信を催促されるのはいやだと思う」などが出た。

児童らは両者の気持ちをさらに考察し、「受け手の状況を考える」「やりとりのルールや時間などを決めて行う」など、メールやSNSの特性と交流での配慮を改めて考え、理解と意識を深めていった。

資料内の人物と照らしてゲーム機利用を考察

続く道徳の時間では、道徳資料「にぎりしめたこぶし」を使い、ゲーム機器との適切な関わりと節度ある生活習慣について考える展開を、同じく林教諭が進めた。

資料は、ゲームに夢中になりすぎて生活が乱れがちな男の子のエピソードを描いた内容。母親にも注意を受けるが、ゲームのことが絶えず気にかかり、母親をだまして布団の中で深夜まで熱中し、ついには体を壊してしまう。それでも、母親は男の子を優しく看病する。その中で、男の子も心からの反省を誓うという経過が示されている。

前半は、資料を同教諭が一通り範読した上で、男の子の気持ちを場面ごとに考えていった。ゲームに夢中になりすぎて母親に怒られる場面では、「それでももっとやりたい」などの意見が挙がり、隠れてゲームをしつづけた場面では、「ばれなきゃいい」「やめようかと揺れる気持ち」など、児童が各自の経験を振り返りながら、ゲームへの強い誘惑と、ついついやりすぎる心の弱さを登場人物と重ね合わせ、切実な思いで見つめていた。

後半では、母親の注意を無視しつづけて体調を崩してしまった男の子が病床でぐっと自分の握り拳を見つめる場面での思いを考えた。

児童は「しばらくは、やめよう」「お母さんの言うことを聞こう」など、ゲームに夢中になりすぎてしまった男の子の思いを想像し、多数の反省につながる意見を語った。

授業の終結部では、同教諭も高校生時代のエピソードを告白。「バスケットボール部で、ある大会をあなどり、不摂生で、体調不良のまま出場した結果、散々な成績に終わってしまった」と振り返り、「私もみんなもにがい経験を持っているとは思うけれど、気にかけてくれる人のことも思い出し、生活を見直して節度のある生活を大事にしたいね」と確認し、ゲーム依存にならないための意識を深めるきっかけづくりとしていた。

同校では、児童だけでなく、保護者、地域とともに進める情報モラル教育にも尽力。ICTの正しい知識を伝えつつ、発達に応じた子どもとの関わりや家庭での具体的なルールづくりなどを、PTA総会や保護者会、学校通信などで伝えている。

近年、SNSなどを通じたトラブルや、インターネット依存などの問題が起きていることを踏まえ、児童の身近でも起こりそうな事例を取り上げながら、児童が原因と対処法を自ら考え、危険から身を守る方法を学ぶ授業や教材開発に力を入れているとした。

タブレット活用で学び合いが促進

また子どもが主体となった学び合いやコミュニケーションを高める学びの実現のために、タブレットPCなどのICTの効果的活用を追究。

タブレットPC活用で互いに画面をのぞき込みながらペアやグループで話し合う機会が拡大し、充実したことや、シミュレーションソフト活用などで個々に応じた学習方法や速度で観察・実験に取り組めたなどの効果を話す。

効果のあったICT活用場面の一例では、くり下がりのあるひき算の説明で、児童が考えたブロック操作による解説をウェブカメラで撮影し、電子黒板で提示したり、シミュレーションソフトでブロック操作を繰り返したり、逆再生することで分かりやすい解説につなげたことなども振り返る。

同校／TEL0585（22）1270。